

# 津島高校 「探究 week」

6月10日(火)～6月13日(金)は、国際探究科の第1回目「探究ウィーク」でした。

「探究ウィーク」では、普段の授業では時間が取れない実験や、大学訪問、模擬授業、知識の定着などを行います。

6月10日(火) 数学A「その確率は本当ですか？」～確率の基本理論とサイコロ実験の融合～

物理基礎「ガリレオのピサの斜塔実験は本当か？」～大きさと質量の異なる4種類の球体の落下を解析して、ガリレオの実験が実際に行われたかどうかを検討する～

6月11日(水) 名古屋大学訪問

6月12日(木) 生物基礎「タマネギって何個の細胞でできているの？」～それを調べる方法を考えてみよう～

言語文化 「古典文法攻略」

進路講演会「推薦・総合型選抜も見据えて今後取り組むべきこと」

ベネッセコーポレーション

6月13日(木) 韓国修学旅行「自由行動で行きたいところ探し」

中部国際空港 「空港のお仕事」と「SAF=再生可能航空機燃料で飛ぶ飛行機」

その中の一部をご紹介します。

6月5日(木) プレ探究ウィークとして JICA 国際協力出前授業 を行いました。

7限に、第1学年全体に向けての国際理解講演会を行いました。JICA 国際協力出前講座の一環で、今

年度は、2004年度から2年間モルディブ共和国に派遣された、鉞田 直史 様にお越しいただきました。

鉞田様は、大学卒業後 JICA 海外協力隊に参加し、“体育のないモルディブの島に体育をつくる”活動をされました。ラスドゥ島という小さな島で体育を教えたさまざまな体験を、写真やクイズを使ってお話しいただきました。生徒たちは、モルディブでの貴重な経験を知るだけでなく、これからの生き方を考える機会となったようです。



～以下は生徒の感想の一部です～

「行動を起こすためには事前準備が重要だと思っていたが、現地で得られるものに重きを置いて挑戦しに行くことの大切さにも気づいた。前向きに挑戦していけるようにしたい。」

「文化の違いをおそれずに“寛容的”な考えで、“能動的”に行動していきたいと思った。」

「国によって、宗教や気候などから作られた様々な文化や習慣があるけれど、違いを否定せず、まずそのことについて知り、理解できるようにしたい。」

「チャレンジ精神から得る経験に大きな学びがある。私も色々なボランティアに参加したいし、講師の方のようにたくさんの人々の力になれるような人になりたい。」

国際探究科 大谷

6月11日(水) 名古屋大学訪問

1 「名古屋大学大学院情報学研究科長 情報学部長 北 栄輔 教授 模擬授業」

北教授の模擬授業では、高校1年生に合わせて、情報学の活用の仕方を楽しく教えていただきました。まず、「情報の力を活用して、まだ見ぬ、社会に存在していないもの・サービスなどを作り出す力」を身につける学部であるという点が、大変興味深かったです。その力には、文系・理系両方の専門家たちが話し合いをするうえで、「本当のニーズは何か？」を見極めるために、コミュニケーション力・対話力が必要で、プロジェクト・ファシリテーション（プロジェクトチームの円滑な運営能力）やステークホルダー・マネジメント（人間調整力）が必要であると学びました。

そのほかにも、少子高齢化社会における農業にIoT(Internet of Things)を活用してスマート農業を目指しているお話や、心理バイアスのお話など多岐にわたる内容で、大変示唆に富み、これからの時代の社会のニーズを読むことが楽しくなる授業でした。

お昼休みには、本校卒業生に学内を案内してもらい、皆で学内レストラン「シェジロー」にておしゃれなランチをいただきました。

午後からは、名古屋大学博物館で、博物館大学院環境学研究科の門脇 誠二先生に案内をしていただき、それぞれ興味深いものを探しました。ちょうど「発光生物：裏庭から深海まで～光を操る生き物たち」展をしており、蛍の雌・雄の光化の違いなどを見ることができました。誕生石や化石、クジラの骨の標本や猿人・類人猿・ホモサピエンスの頭蓋骨の標本など、それぞれ興味深いものをじっくり見たり質問

をしたりと、文系理系ともに何かを発見する機会となりました。生徒たちの探究的な学びにつながる刺激をたくさん手に入れることができた1日になりました。北学部長様はじめ、名古屋大学関係者の皆様に心より感謝申し上げます。

国際探究科 大谷



## 国際探究科 探究ウィーク最終日 特別講義：「中部国際空港を学ぼう！」

中部国際空港株式会社地域共生部から濱高麻里子様と渡辺吉章様をお招きし、上記のタイトルで講義をしていただきました。空港と言えば、パイロットやCA、グランドスタッフといった仕事ですぐ思い浮かびますが、今回のお話を聞いて、300もの企業と10,000人を超える人が、空港を「人にも環境にも優しく」運営するために携わっていることを知ることができ、将来の職業選択の幅を広げることができました。

また、環境に優しい取り組みとして、「食用油から飛行機を飛ばす」プロジェクトに取り組んでいることを知ることができました。中部国際空港は、地元自治体の協力を得て食用油の廃油を回収し、石油会社を通して廃油から作った次世代燃料（SAF）を航空会社に売り、飛行機を飛ばすことで人々に還元するというサイクルを実現しました。どの家庭でも廃棄している食用油から飛行機の燃料ができることを聞き、生徒たちは自分たちでも津島高校生の家庭や周辺地域の方々に呼びかけて、そのプロジェクトに参加できるのではないかと考える一歩となりました。

国際探究科 丹羽

